

優しく強い子に！



U-12第10節の結果 (速報) 6月2日(日) 北河原G

- めあて
5つ観てコーチング
相手より声を出す
走り負けない
ミドルを撃たせない
北斗七星
- 南八王子3-2愛宕
得点 セイジュン君 (A:ワヘイ君)
シュンセイ君 (A:セイジュン君)
ワヘイ君

南は技では負けない！
ハードワークをしたら、
どこと対戦してもいい勝
負ができるよ！
自信を持っていいよ！！

<http://www.minamih.net/>
19・6・2(日)
南NEWS no 26

前節の反省で、攻めの時にボールサイドでのMF・DFラインの押し上げ、前と3~4mの間隔でフォローアップして分厚い攻めを徹底しよう！トップにボールが出たら、ボールサイドはスプリントで上がろう、

北斗七星の形を創ろうと試合前に確認しました。
前半4分。左渡り廊下に左ミドルサードからLSBトウイ君がスルーパス。LMFワヘイ君→TOPセイジュン君とつながり、ペナ左45度に持ち込んだセイジュン君が落ち着いてゴール右側へ蹴り込み、先取点。
7分。相手ペナ左からドリブルで切れ込んだセイジュン君がクロス。RMFシュンセイ君が左足のダイレクトで合わせて2点目！
12分。つるべが甘くなった所を衝かれて失点！2-1で前半を折り返しました。

前節に比べて、攻めの分厚さは改善しましたが、ドリブルすべき所で、ドリブルしなければいけないポジションの子がワンタッチサッカーを繰り返し、中盤でゲームメイクができません。何度も相手にボールを奪われてしまい、逆襲を受けていました。ドリブルの上手さ、フィジカルの強さを活かそうね！

逆に、早く渡り廊下へのスルーパスを出した方がよいポジションの子が、ミドルサードでドリブルしてつぶされることがありました。
前から指摘して指導していることで、今回も試合後に何故なのかを話しましたが、サッカーをどれだけ理解しているかの問題です。

後半。29分。右コーナーキックからの左へのこぼれ球をワヘイ君が右足で蹴り込み、3点目。

その後もアタッキングサード左渡り廊下からのクロスにワヘイ君が合わせるもゴールならず。CBミツキ君がミドルサード左から中央をドリブル突破！GKをかわすも得点できず。RMFユウカさんが相手ゴール前でスルーパスを受けるも得点できずと、いくつかいい形を創るも追加点をあげられませんでした。

35分、相手の逆襲を受けて失点。その後も攻め込まれて危うい場面もありましたが、1点差を守り切ってタイムアップ！前節南を破ったガルダに勝った愛宕を退けました。5点以上取れる試合でした。決定力！

- 課題 つるべが甘い
首を振って同一視ができない
コーナーキックのマークの確認が甘い
どこでドリブルの勝負をするか理解していない
渡り廊下の攻めはできるが、くさびからの展開が皆無
技の精度を今より上げる
スライドができない、そのコーチングもない。
スプリントのスピードをもっと上げる
5つしっかり観て、コーチングの質を上げる



b y 南の安版万

……子ども達の笑顔が何よりのモチベーション
たくさんの明日……

小説「そして、バトンは渡された」 瀬尾まいこ著 文藝春秋

p 279

「……梨花が言った。優子ちゃんの母親になってから明日が二つになったって」

「明日が二つ？」

「そう。自分の明日と、自分よりたくさんの可能性と未来を含んだ明日が、やってくるんだって。親になるって、未来が二倍以上になることだよって。明日が二つにできるなんて、すごいと思わない？……」

小説の中の会話です。これを読んだとき、(ボランティアで土日のサッカーの指導をしてくださっているコーチのみなさんも、ご自分と子ども達の数だけ明日を持っているんだな)と思いました。(子ども達の可能性と未来を信じることができるからグラウンドに顔を出すことができるんだな)と思ったのです。

役員さんとして、保護者として、チーム・クラブの子ども達を思い、力を発揮してくださるみなさんも山田会長も同じです。ご自分と子ども達の数だけ明日を持っているのです。

N o b l e s s e O b l i g e に感謝・感謝です。

教員も同じです。私も同じでした。自分とクラスの子ども達の数だけ明日を持っているのです。それを信じて大切にする教員は教材研究や授業の創造に力を尽くすのです。ブラックなんて思いません。(ただ、今の先生方は忙しすぎます)

子ども達の笑顔を思い浮かべながら、いろいろと勉強・準備をして、子どもの指導をしてくださるコーチのみなさんと同じです。

小説のこのページを読んで、上記のことを考えたとき感情が少々高ぶり、目に水が溢れました。

b y 南の安版万

古い歌ですが、吉田拓郎の『夏休み』にある田んぼのカエル、畑のトンボはどこに行ったのでしょうか？湯殿川でフナやドジョウを追っていた子ども達はどこに行ったのでしょうか？

30数年前の由井三小で授業中にオニヤンマが教室に飛び込んできたことがありました。校歌にあるように“トンボもセミも住むところ”だったのです。その頃は子ども達と湯殿川に入って遊ぶことができたのです。フェンスもコンクリートの土手もなく、校庭からそのまま湯殿川へ行き、釣りや水遊びを楽しみ、学年で写生をしたりができたのです。

何より一緒に遊ぶ仲間がいて、遊ぶ空間・時間があつたのです。

今、国連が「日本の子ども達は競争にあおられ、遊ぶ時間、リクリエーション、芸術を楽しむ時間が無いことは是正すべきだ」と日本に勧告しています。



